

学生会員の皆さん、是非積極的な地団研活動を！

金子 翔平 (福島支部)

福島支部での経験

私はいくつかの学会に所属しておりますが、地団研の大きな特徴は、単なる学会発表だけでなく、支部活動と団研活動があることだと思います。私は学部3年生の時から福島支部に所属しております。最初に地団研の活動に参加したのは、学部2年生の時のいわきでの巡検です。2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の1か月後に起きた地震により断層が生じました。その見学が主な巡検内容だったと記憶しております。それ以来、福島支部の巡検には参加するようになり、福島県内を中心とした巡検に参加してきました。支部会員の中には教員や技術屋の方々がいらっしゃいます。巡検の際には地質学に関する様々なことを教えていただいております。巡検に参加する度、新しい発見があるのはすごくいい経験だと思います。

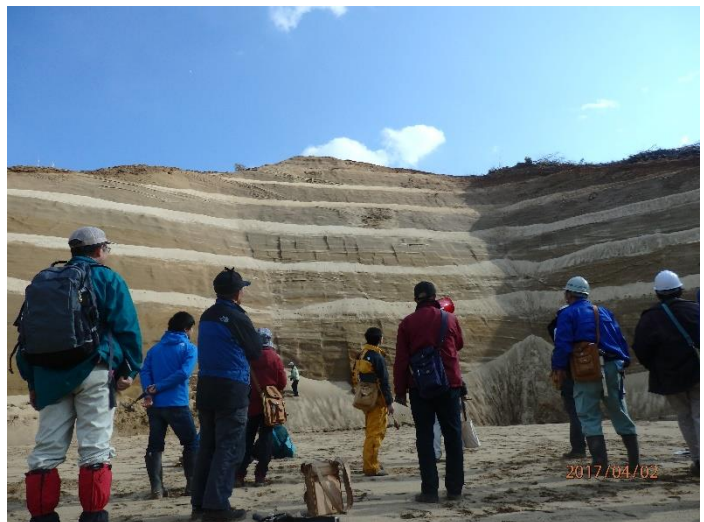


2018年11月に行われた福島支部巡検

(あぶくま霊山巡検)

原発団研で学んだこと

私は地団研の団研活動の1つである福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ(以下、原発団研)に所属しております。福島第一原発の事故は、汚染水問題の解決なども含め未だ収束していません。原発団研は2015年に発足し、地質学・応用地質学的観点から福島第一原発の汚染水問題の状況把握と問題点を明らかにするために活動を続けております。原発団研の活動の詳細については、『地学教育と科学運動』の80号を参照ください。「1人1芸」がモットーである原発団研では1人ひとりが問題意識を持って取り組んでおります。団研の活動で驚くのは、若手会員よりもベテランの方々が率先して露頭に向かうことです。この姿勢について



原発団研調査風景(2017年4月)福島県南相馬市南部に分布する鮮新-更新統大年寺層中にみられる未固結砂層

では私も見習うべきものだと思うと同時に、露頭に向かうためには、何かしらの興味や関心がないと露頭を観察し続けることはできない、ということも感じました。福島大学では地質に関する授業がほとんど無いため、正直なところ露頭を見ても何をどのように見ればよいのか、というのが良く分かりませんでした(改めて思うのは、上記の理由はただの言い訳であるのかなということです)。私が露頭に向かうようになった大きなきっかけは、露頭を見るときに「この露頭をどう地下水が流れるのか」「地下水流動

モデルを作るとしたらどう考えるか」などと自問自答するようになったことです。最初はこの疑問を考えても、「難しいな」の一言で終わってしまうことが多かったです。ですが、何度も巡検に参加し露頭を見る度に、またベテランの方々の熱い議論を聞く度に露頭に対する興味や関心が大きくなってきました。この自問自答から始まる私の露頭観察では、透水係数の高い地層の連続性を追うことやモデルを構築する上でのキーポイントを考えることが現在のテーマとなっております。団研としての課題に意識を向けるとともに、自分でテーマを持ち露頭を観察すると、現地で露頭を見るのが非常に楽しいものに思えます。

積極的に地団研の活動に参加しよう

学生の皆さんは、地質学に関する研究と言っても、様々なテーマで研究を行ったり、授業に参加したりしているものと思います。地団研には支部活動と団研活動があり、また、ベテランの方々がいらっしゃいます。地団研の活動に参加することにより、様々な観点での知識を得ることができ、多面的な議論を聞くことができます。これは他の学会では得ることのできない貴重な経験に繋がると思います。地団研の活動には、是非積極的に参加することをお勧めします。